

東京物語(Tokyo Story)

観賞日 2025年9月22日 上映時間 136分

【概要】

制作 1953年 (松竹)

監督 小津安二郎

脚本 野田高梧

音楽 斎藤高順

撮影 厚田雄春



出演 笠智衆 (平山周吉)、東山千栄子 (とみ)、原節子 (紀子)、杉村春子 (金子志げ)
山村聡 (平山幸一)、香川京子 (京子)、大坂志郎 (平山敬三)、三宅邦子 (文子)
中村伸郎 (金子庫造) 東野英治郎 (沼田三平)

【あらすじ】

尾道に住む平山周吉、とみの老夫婦は子供たちに会うために久しぶりに東京に出かける。子供は開業医の長男・幸一と美容院を営む長女の志げ、それと戦死した次男昌二の嫁の紀子。しかし、幸一も志げも個人営業で仕事にかまけて親の面倒が見られない。結局、血のつながらない紀子が東京見物のお供をすることになる。翌日は志げの発案で老夫婦は熱海観光に出かける。しかし、熱海は騒々しく田舎育ちの老夫婦は馴染めずに一晩で帰ってくる。次の日は、周吉は旧友相手に痛飲、とみは紀子の所で心ばかりのもてなしを受ける。帰りは夜行の急行列車。車中、とみが体調を崩し大阪に住む三男、敬三の世話になる。そして、尾道に戻るととみの容体が急変。今度は子供たちが尾道にかけつける。しかし、ここでも子供たちは多忙を理由に葬儀が終わるとそそくさと帰ってしまう。一人残った紀子が周吉に語ったことは・・・。

公開当時を知るうえで貴重な風俗映画。小津ワールドの頂点と世評の高い作品。

【解説】

■ポイント

●原節子 (1920年～2015年)

・横浜市出身。義兄の熊谷久虎監督の紹介で映画界入り。

1937年、日独合作映画「新しい土」のヒロインに抜擢され女優としての地位を確立。

- ・戦後は、吉村公三郎、木下恵介、今井正、小津安二郎等大監督の代表作でヒロインを演じ日本映画界を代表する女優となる。特に小津作品には欠かせない存在となるが、1962年に突然引退。「永遠の処女」「日本のグreta・ガルボ」等と呼ばれた。



●評価

- ・キネマ旬報：オールタイムベスト映画・日本映画編（2009年）：第1位
- ・文藝春秋：大アンケートによる日本映画ベスト150（1989年）：第2位
- ・英国映画協会：映画監督が選ぶ映画ベスト10（2012年）：第1位

■見どころ

●当時（1950年頃）の時代

- ・地方対都会：過疎化する地方と過密化する都会
- ・世代間の対立：高齢化する親世代と仕事に忙殺される子世代。核家族化の進行。

親離れと子離れ

- ・まだ残る戦争の傷跡：子供の戦死、戦争未亡人、戦友会